

平家星「ベテルギウス星」の運命は

今 溝 孝 男

満点の星空が見える土地に行くと、まるでキラキラ光り輝く宝石をばらまいたかの如く様々な色で星々が煌めいているのに気がつきます。その色の種類は何と豊富なことか。広大な宇宙の中には、実際にダイヤモンドで構成されている星やペリドット等の本物の宝石浮かんでおり多量に存在しています。今年は金環日食で話題をさらった太陽ですが、宇宙には太陽よりずっと小さくしかし質量は何倍もあると言う白色矮星や中性子星、未だ謎が深まる見えない星ブラックホール等も数多く存在しています。ブラックホールは超巨大な恒星が、星としての末期を迎え、自信の重力にどこまでも押しつぶされて行き、近隣に星があればその星さえ食物にしてしまうと言う星で、言わば蟻地獄のような天体です。最も本物の蟻地獄はお腹を満たしてしまえばそれまでですが、ブラックホールは引きずり込む限界がありません。こんな環境ですからブラックホールが存在する空間は歪められて光りさえ真っ直ぐ進むことが出来ません。シュヴァルツシルト半径と言われる球面（「事象の地平線」とも言います）の内側に入ってしまうと、光ですらもう脱出することが出来なくなります。

今、夜空に人類史上始めて以来、最も注目を集めている星があります。それは、オリオン座を構成する星々の一つで、赤く輝く一等星「ベテルギウス星」です。この星の呼び名を日本では古来から源氏の旗色は「白」、平家の旗色は「赤」となっているところから、オリオン座では二つの一等星が丁度斜向かいに煌めいており、白く輝く「リゲル星」を「源氏星」そして、赤く輝く「ベテルギウス星」を「平家星」呼び親しんできま

した。また、ほぼ一直線に並ぶ三つ星とそれを取り囲むように四つの星々で構成されているオリオン座は、「つづみ星」として万葉の時代から着目されてきました。

今、なぜベテルギウス星が注目されているかと言いますと、「超新星爆発」と言う言葉を聞いた事があると思います。この超新星爆発がベテルギウス星において今日、明日には起こるのではと思われているからです。

もし、起こったとしたら有史以来初めて我々が目にする光景となります。

過去に、マゼラン星雲等の星雲に所属する恒星や銀河系内においては既に超新星爆発が起こってしまった後の残骸等については観測されていますが、ベテルギウス星までの距離は約640光年とかなり近く、これほど近い距離でしかも、超新星爆発を起こす直前から観測できるのは初めての事なのです。

これは、天体観測機器の精度が格段に上がった結果、可能となりましたが精度が上がった技術の成果として恒星を巡る惑星探し、言わば第2の地球探しにも利用されています。

既に数百個の恒星を巡る惑星が発見されています。

ここでベテルギウス星とはどんな恒星なのか紹介します。ベテルギウス星はオリオン座の α 星として輝いており、太陽の約20倍の質量を持つ脈動変光星でしかも赤色巨星で、全天で9番目に明るい一等星の仲間です。

我々太陽系の主である太陽が終焉を迎えたならば、「白色矮星」になるだろうと言われていきます。終焉は大きさによって、様々な終止符を打つ

